

廃棄物削減とゼロエミッション

ゼロエミッションの維持

循環型社会への実現のために、富士フィルムは「事業活動で発生するすべての廃棄物を100%再資源化し、廃棄物の焼却・埋立をとともゼロにする」、すなわち産業廃棄物のみならず、一般廃棄物、食堂の生ゴミなど廃棄物の全てを再資源化するという目標を掲げ、「ゼロエミッション推進委員会」を中心に対策を推進してきました。その結果、2001年度に生産に関わるすべての事業所がゼロエミッションを達成したのに引き続き、2002年度には富士フィルム本社および各支店・営業所が

すべてゼロエミッションを達成しました。2003年度末までには国内全グループ会社で、ゼロエミッションを達成する予定です。

また、廃棄物の発生量に関しては各事業所の廃棄物削減努力にも関わらず、現状は増産や新製品の試作を背景にして増加傾向となっています。2002年度は対前年度5.5%の増加となりました。今後は事業所間の緊密な情報交換に基づいてよりインパクトの大きな施策の立案、実施をします。

主なリサイクル方法

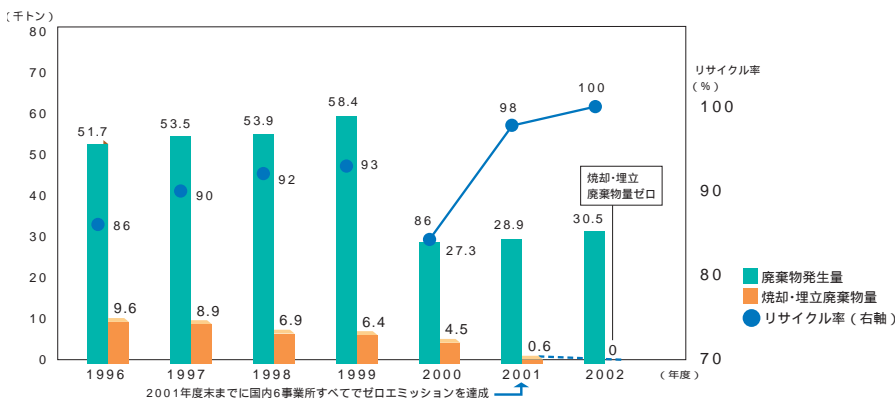
廃棄物	リサイクル方法
プラスチック(分別品)	パレット、配管、衣服、断熱材等
プラスチック(混合品)	高炉原料
磁気テープ	高炉原料
フィルター	高炉原料
水酸化アルミ	アルミナ
無機汚泥・研磨剤	セメント、路盤材、建築用資材
有機溶剤	塗料用シンナー
酸・アルカリ	中和剤
可燃性廃棄物の混合品	固形燃料、発電・温水製造
蛍光灯	ガラスウール、水銀
電池	亜鉛、鉄精錬
残飯、生ごみ・有機汚泥	肥料、飼料
書類、空箱	再生紙
鉄、アルミ、銅等、金属類	金属精錬

*富士フィルムでは安全性を最優先に考えており、一部の研究用廃試薬および感染性廃棄物に限り、ゼロエミッションの対象外としています。

ゼロエミッションの実績

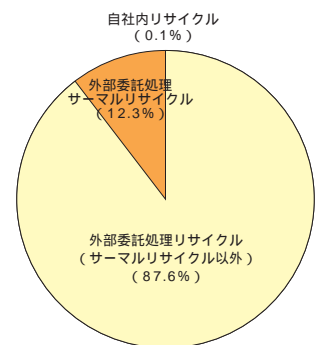
部門区分	事業所	ゼロエミッション達成
事業所	吉田南工場	2001年 3月
	朝霞技術開発センター	2001年 3月
	富士宮工場	2001年12月
	宮台技術開発センター	2002年 1月
	足柄工場	2002年 3月
	小田原工場	2002年 3月
	本社 支社 営業所	東京本社
大阪支社		2003年 3月
札幌営業所		2003年 3月
仙台営業所		2003年 3月
名古屋営業所		2003年 3月
広島営業所		2003年 3月
福岡営業所		2003年 3月

廃棄物発生量と焼却・埋立廃棄物量の推移(富士フィルム国内6事業所のデータ)



*1999年度以前は有価物も廃棄物の対象に含めていましたが、2000年度のデータからは、社外に排出する無価物のみを廃棄物として集計しています。また今回、各事業所の廃棄物分類を見直し、共通化しました。その結果、集計結果は前年度のものとは若干異なっています。

リサイクル処理内訳(2002年度)



サーマルリサイクル

廃棄物を焼却してその熱エネルギーを利用したり、固形燃料化または油化して燃料として利用するリサイクル方法のことです。

ゼロエミッション

資源循環型社会の実現に向けて、廃棄物を新たな原料やエネルギー等として活用し、廃棄物ゼロを目指す活動であり、組織により定義は異なります。(富士フィルムでは事業活動で発生するすべての廃棄物を100%再資源化し、廃棄物の焼却・埋立をとともゼロにすることを定義しています)